

東京農業大学



# 湘南稲桜会だより

発行 東京農業大学 校友会神奈川県支部 湘南稲桜会 発行責任者 松居靖雄

事務局 〒238-0032 横須賀市平作 4-1-9 清水圭一方 TEL 046-854-0044

## 私のコロナウイルス感染症考

湘南稲桜会会長 松居靖雄

初夏の候、湘南稲桜会会員皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当会の活動にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

当会は毎年5月に総会・懇親会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大と防止に配慮し、一昨年より中止してまいりました。

本年度も感染症の終息に目途が立たず昨年同様に総会・懇親会の開催を見送ることいたしました。

1日も早く終息し、制約なく会員皆様とお会いできることを願っております。

まずは、紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

さて新型コロナウイルス感染症は2020年2月中旬に、神奈川県で国内初例目が確認されて以降、感染者例やその死亡例が徐々に増加傾向にあり、横浜港に寄港した大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」、さっぽろ雪まつり、屋形船などの感染事例が記憶に残っております。

中でも、タレントの志村けんさんが新型コロナウイルスに感染し、重篤化から死に至ったことは、多くの方々に衝撃的を与え、新型コロナウイルス感染症が身近な問題として捉えられるようになりました。

この感染症事例を契機に、以下の感染予防対策を概ね励行してきたと思います。

- ① マスクを正しくする/大声で話さない
- ② 手洗い、手指の消毒、うがい等の励行
- ③ ソーシャルディスタンス

④密(密閉・密集・密接)の回避

⑤まめな換気

その他として、

① 公共交通機関には乗らない

② 人込みを避ける(特にスーパーマーケット・ホームセンター・レストラン等はお客の少ない時間帯を選ぶ等々)を念頭に行動もしております。

ただし、趣味の家庭菜園の作業中はマスクの着用をせず今日に至っています。

最後に、基礎疾患や治療中の病を保有する高齢者の私、予防対策は実施しておりますが通院している院内の衛生環境が分からず、大変気になっております。

現在は4回目のコロナワクチンの接種を心待ちにしております。

## 無題(2022. 4. 23)

昭和 48 年栄養学科卒 磯谷ゆり子

寒かった苦手な冬も過ぎようやく春を迎え、花や鳥が生き生きと姿を見せてくれるようになり、気持ちが少しずつ前向きになってきました。

そして私にとっては悩ましい花粉症の季節でもあります。コロナ禍の社会も 3 年目を迎えいまだ完全には収まらずマスクが手放せません。

いつマスク無しの生活ができるようになるのでしょうか。それでも町に出ると社会は普通に動いているように見えます。コロナ感染に気を付けながらいつもの生活を取り戻そうとしています。

外出の機会は以前に比べると少なくなりました。私の場合外でのスポーツをすることでストレスが軽減でき体力維持もできているよう

です。  
最近になってウォーキングを始め緑豊かなハイキングコースや抜け道のような山道を楽しみながら歩いています。家から徒歩圏内にこれだけ緑があった事は幸いでした。我家はコロナ感染が少し下火になった秋に、恒例行事のもなっているりんご狩りに長野まで出かけました。リンゴの木 1 本分を収穫して、その翌日から毎日りんごを食べる生活が始まります。リンゴジャムを手作りし冷凍保存、庭にあるブルーベリーも収穫後冷凍し、少しずつジャムに加工し食卓に並べます。手作りジャムのある朝食はなんだか気持ちが豊かになったような気がします。  
近々稲桜会の活動が再開できる日が来ることを願いコロナに負けない体力と栄養保持に努め皆様と元気にお会いできる日を楽しみにしています。

### みどり戦略法が成立

昭和 39 年畜産学科卒 小清水征雄  
4 月 22 日「みどりの食料システム戦略」を推進する法律が参院本会議で可決・成立した。この法律は農業の環境負荷低減を目指したものである。新法の名称は「環境と調和の取れた食料システムの確保のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」で第三条の基本理念では、将来にわたり農業や食品産業の持続的な発展と食料の安定確保を図るためには「生産等の各段階において環境への負荷の低減に取り組むことが重要であることを踏まえ、農林漁業者、食品産業の従事者、消費者その他の食料システムの関係者の理解の下に、これらの者が連携することにより確立が図られなければならない」としている。第六条では事業者及び消費者の努力として事業者には農林水産物等の生産過程において、環境への負荷の低減に資するための生産等の方式の導入、資材及び原材料の調達等の取り組みを行うよう努めなければならない。この環境負荷低減の具体的な方法は「たい肥その他の有機質資材の施用により土壌の性質を改善させ」土づくりを挙げるとともに、「科学的に合成された肥料及

び農薬の施用及び使用を減少させる技術を用いて行われる生産方式」と減農薬減化学肥料の栽培を求めている。又、温室効果ガスの排出量の削減に努めることも挙げている。一方、消費者にも有機農産物など環境負荷の少ない方式で生産された農産物を「選択努力」することが盛り込まれている。この法律は化学肥料・農薬低減や有機農業などの実現に取り込む農家を融資や税制等で支える仕組みを創設する。公布の日から 6 か月以内に施行し、施行から 5 年をめどに見直すとしている。

### 無理は禁物

昭和46年造園学科卒 清水圭一  
健康のために早朝のスロージョギングを続けていますが、先日前を歩いている人を追い抜こうと少しスピードを上げて走ったところ腰に違和感を感じました。帰宅後徐々に痛さが出てきて、ついには松葉杖のお世話になる始末。骨に異常はないとの診察でしたが、少し痛みは残るものの普通に歩けるようになったのは一か月後でした。

今回、「いつまでも若いころのような体ではない」、「回復力も衰えてきている」をつくづく実感しました。気持ちはいつまでも学生時代のように熱くありたいのですが、何事も無理をせずに後期高齢者の生き方をしなければと自戒しています。

### <校友の動向>

(令和4年春の褒章受章)

校友会神奈川県支部長の加藤恒雄様(昭和47年畜産学科卒業)が瑞宝双光章を受賞されました。おめでとうございます。

(訃報)

当会の校友がご逝去されました、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

西原 武史 様

昭和 58 年醸造学科卒業

今号は皆様からの投稿により発行しました。湘南稲桜会の活動に対するご要望、ご意見がありましたらお気軽に事務局あてご連絡ください。